

Tranzax 受発注債権担保融資100億円 8割が補助金対応

フィンテック企業Tranzax(東京都)が提供する受発注債権担保融資「POFファイナンス」(POFII P

Oはパーチェス・オーダー(注文書)の略)の取扱高が、1月末時点で100億円を突破した。2019年6月に補助金対応POFが国の成長戦略として閣議決定し、国や自治体で利用可能な補助金が増加。POF全体の取扱高の76%が補助金対応となった。ものづくり補助金、事業再構築補助金などのつなぎ資金として、POFを利用する金融機関は信用金庫・信用組合が約半数を占めた。

同POFの枠組みは、SDGs(持続可能な開発目標)の原則に沿ったファイナンス(ソーシャル、グリーン)として日本格付研究所の評価を取得。SDGsの各種テーマに合致した国や自治体の補助金を担保とした融資をSDGs金融の実績にできる。第三者認証やモニタリングなどを簡略化できるため、大手地方銀行などでの利用も増えた。

注文書を元に受注段階で融資できる「一般POF」の活用シーンも拡大。多重の下請構造となっている運送業界では、下請けの倒産・廃業を回避するため、荷主(発注者)が下請の資金繰りを改善するために一般POFを利用する事例もある。

24年2月末のPOF

実績は606件・104億8千万円。毎月24日には西日本の地域金融機関がPOFをみ上がっている」(大塚博之社長)という。採用する計画だ。